

**生駒市医療介護連携ネットワーク協議会**  
**平成 29 年度第 1 回在宅医療介護推進部会 会議録**

開催日時	平成 29 年 5 月 27 日（土） 午後 3 時 00 分～午後 4 時 20 分
開催場所	生駒市コミュニティセンター401 会議室
出席者 （委員）	有山委員（部会長）、林委員（副部会長）、山口委員、崎司委員、月川委員、 霜田委員、倉本委員、高山委員、世古委員、吹留委員、工藤委員、井上委員、 加藤委員、今西委員、溝口委員（新部会長）
出席者 （関係者）	近畿大学医学部奈良病院 竹中事務長、田花課長 生駒市医師会 土橋次長 株式会社オフィス・オルタナティブ（支援業務受託者） 2
欠席者	辻村委員、吉藤委員、田中委員
事務局	福祉健康部 増田次長、地域医療課 石田課長、後藤課長補佐
傍聴	2 人
案件	（1）平成 29 年度協議事項、スケジュールについて （2）入退院調整マニュアル作成ワーキンググループの設置について （3）その他 ・在宅医療介護資源集について ・平成 28 年度第 2 次補正予算総務省医療健康データ利活用基盤高度化事業に おける地域医療介護連携 ICT 化基盤高度化事業について
資料	（資料 1）在宅医療介護推進部会員名簿 （資料 2）在宅医療介護推進部会の設置及び運営に関する規程 （資料 3）生駒市医療介護連携ネットワーク協議会在宅医療介護推進部会平成 28 年度活動報告書 （資料 4）生駒市における「入退院調整マニュアルづくり」 （資料 5）入退院調整マニュアル作成ワーキンググループ設置要領 その他 ・在宅医療介護資源集 ・地域医療介護連携 ICT 化基盤高度化事業

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p><b>1 開会</b></p> <p>辻村委員、吉藤委員は所用のため、田中委員は認知症対策部会へ参加のため欠席。在宅医療介護推進部会の設置及び運営に関する規程第3条第6項の規定に基づいて近畿大学医学部奈良病院の竹中事務長と田花課長にご出席いただき、案件（3）その他の、平成28年度第2次補正予算総務省医療健康データ利活用基盤高度化事業における地域医療介護連携 ICT 化基盤高度化事業についてご説明いただく旨を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配付資料確認</li> </ul> <p><b>2 新部会員、事務局の紹介</b></p> <p>中溝委員に代わり、生駒市歯科医師会副会長霜田吉見委員。 片岡委員に代わり、生駒市立病院社会福祉土月川直也委員。 橋本委員に代わり、奈良県郡山保健所健康増進課長今西浩美委員。</p> <p>平成29年4月1日から部会の事務局が地域医療課となり、規程の適用条文を改正。部会の運営協力をお願いしている、株式会社オフィス・オルタナティブの平岡氏と伏見氏が事務局として出席。</p> <p><b>3 案件</b></p> <p><b>(1) 平成29年度協議事項、スケジュールについて</b></p> <p><b>(2) 入退院調整マニュアル作成ワーキンググループの設置について</b></p>
事務局	<p>案件（1）資料3に基づき説明</p> <p>案件（2）資料3、資料4、資料5に基づき説明</p> <p>ワーキンググループの設置を提案する。所掌事務は設置要領の第2のとおり。具体的には、7月中旬の事業説明会でお願いする入退院調整状況調査の項目内容について、ワーキンググループの皆さんで事前に協議検討していただければと考えている。そして、9月の病院側、ケアマネ側の各部門の会議までに、調査の集計・分析結果を踏まえて、マニュアルに盛り込む内容について各会議での協議のポイント等を検討していただく予定。また、11月、2月の合同会議までに、各部門からの意見や要望の調整のたたき案、あるいはマニュアルのたたき案を検討していただきたい。また、会議当日のファシリテーター役をお願いしたい。</p> <p>設置要領の第3「組織等」について。今回は初めての取組なので、病院と地域包括支援センター・ケアマネジャーの間に入退院調整に限定し、運用の段階で訪問看護師、薬局等の他職種に拡大していきたいと考えている。市内の病院、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所から来られている部会員の皆様、部会長、市の担当部局職員の委員、合わせて8名にメンバーになっていただきたいと考えている。設置要領第3の2にあるように、部会員と同じ職域で、より現場のことに精通している方を推薦いただいても構わない。リーダー・サブリーダーについては、この取組をご了承いただきメンバーが決定した後にご相談させていただく。なお、入退院調整マニュアルについては、県内ですでに導入している地域がある。ここで、郡山</p>

<p>委員</p> <p>部会長</p> <p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>保健所の今西委員より県の取組状況についてご報告をいただきたい。</p> <p>奈良県では平成27年度から入退院調整マニュアルの事業に取り組んでいる。平成27年度は宇陀市、桜井市、磯城郡等の東和医療圏で取組がなされた。平成28年度は橿原市と明日香村、高市郡で同じような調整ルールが出来上がっている。このルールづくりを行うなかで、お互いの関係が良くなった、連携が早くなったということがあった。病院からの退院調整の連絡状況は、平成27年度の事業が始まる前は東和圏域では50%であったが、運用後半年で64.7%、1年後には76.9%と、確実に連絡がいきやすくなっている。生駒市における事業でも、まず顔が分かり、お互いの連絡が取りやすくなり、その結果、スムーズに連絡が取れるようなかたちで進んでいけばと思っている。</p> <p>では、案件(1)。昨年度の活動内容を報告書としてまとめていただいた。昨年度の最後の会議での皆さんからの意見も含まれている。多くの課題のなかで、優先度の高いものの一つが入退院調整マニュアルづくりである。</p> <p>平成29年度の計画として報告書の16ページに、ワーキンググループの設置、人材育成、資源集のデータベース化、相談支援窓口の設置など、していかなければならないことが計画スケジュールに上がっている。</p> <p>報告書、スケジュールについて何かご意見、ご希望等はないか。</p> <p>(発言なし)</p> <p>では、来年度の計画についてはこの案で進めさせていただく。</p> <p>入退院調整マニュアル作成ワーキンググループ設置については、先ほど事務局から説明があったが、入退院調整マニュアル作成ワーキンググループ設置要領に基づいて進めさせてもらってよろしいか。</p> <p>それと、メンバーの選定も先ほどあった説明のようなかたちでよろしいか。「是非入りたい」という方は、10名以内なので後からでも参加したいとおっしゃっていただければと思う。</p> <p>それと、入退院調整マニュアル作成のスケジュールについても先ほどご提案いただいた日程で進めてもよろしいか。</p> <p>(同意)</p> <p>入退院調整マニュアル作成ワーキンググループについてご了承いただき、ありがとうございます。</p> <p>現場ではマニュアルがどのようなかたちで利用されているのかを、吹留委員からお聞かせいただきたい。</p> <p>以前は、病院の窓口がどこか分からなかったが、最近は地域連携事務室が1本化されて相談しやすい流れになっている。しかし、依然いつのまにか退院していたり、会議に呼んでもらえず「退院するのでお願いします」ということがあったりする。現場の看護師、医師との連携を深めるためには、入退院調整マニュアルは必要だと思う。</p>
---	---

部会長	<p>ありがとうございます。入退院調整マニュアルは生駒市にとって非常に必要なものであるということで、我々部会は積極的に話を進めていくので、皆様のご協力をお願いします。</p> <p>案件（１）（２）についてほかにご意見は。</p> <p>（意見なし）</p> <p>無いようなので、案件（１）（２）についてはそのようにさせていただく。この件は、後のネットワーク協議会で報告させていただく。</p> <p><b>（３）その他</b> <b>在宅医療介護資源集について</b></p>
部会長	<p>次に案件（３）その他、在宅医療介護資源集について、市医師会事務局から説明をお願いします。</p>
市医師会事務局	<p>誰もが安心して在宅医療を受けられるまちづくりを目指し、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に取り組むうえで、医療と介護の職種間や制度を超えた関係性を構築することが不可欠であり、相互理解と情報共有が重要課題となる。在宅医療介護資源集は、在宅医療に携わる方々に役立てていただけるよう医師会が作成したものであり、生駒市および生駒市医療介護ネットワーク協議会、本部会との連携、調査のもと、市内の医科、歯科、薬局、介護事業所 315 件の情報をまとめた。平成 28 年度奈良県在宅医療推進事業補助金交付事業である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「資源集」構成内容について説明</li> </ul> <p>掲載情報は平成 29 年 3 月現在のものである。これらを活用し続けるためには、情報の更新、切れ目のない情報開示の構築方法等の検討が今後の課題となっている。最後に、関係者各位の方々にご協力いただいたことにお礼申し上げます。</p>
部会長	<p>皆様のご協力のもと、いいものができた。これを活用することが非常に大事になる。また、先ほど述べられていたように、情報の更新を誰が担っていくかが今後の大きな課題で、来年度の取組に含まれている。また、生駒市周辺の事業所へどのように広げていくかについても、次の課題と考えている。今後もこの部会で引き続き検討していくことになるので、よろしく願いしたい。</p> <p><b>平成 28 年度第 2 次補正予算総務省医療健康データ利活用基盤高度化事業における地域医療介護連携 ICT 化基盤高度化事業について</b></p> <p>続いて、平成 28 年度第 2 次補正予算総務省医療健康データ利活用基盤高度化事業における地域医療介護連携 ICT 化基盤高度化事業については、近畿大学医学部奈良病院が独自の協議会を作って実施されると聞いている。本部会の活動と関連性が深いと考えられることから、情報提供をいただくために、本日、お越しいただいている。近畿大学医学部奈良病院事務局長から説明をお願いします。</p>

<p>近大奈良病院 事務長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づき説明</li> </ul> <p>国が医療の ICT 事業の取組、活用が進んでいない現状を打破するため、平成 28 年度補正予算をつけ、現在、内定をもらっているところである。</p> <p>事業は大きく分けて、二次医療圏（ここでは西和医療圏）、複数の二次医療圏（医療圏またぎ）、三次医療圏（全県）の三つがあるが、私どもは二次医療圏内の EHR 再生モデルを申請している。全国で 16 カ所が内定を受けている。レベルは様々で、徳島県では全県レベルでやろうとしている。ネットワークと名前のついていところは、補助金を利用して今やっている事業を拡大してやっていく。私どものように全くの新規は数カ所しかない。</p> <p>この事業は病院・診療所だけでなく、在宅施設、介護施設、調剤薬局等々、関連する施設間の連携を ICT を使ってやっていこうとするものである。</p> <p>この事業の主体は近大病院がすることになっているが、あくまで西和医療圏のネットワークを構築するという取組である。近大病院の患者でなくても地域のクリニックや介護施設などの情報のやりとりの活用ができる。近大病院との関係は必要ないので、誤解のないようお願いしたい。</p> <p>今回、参加施設を増やすことも重要だが、このようなシステムを利用することによって多くの市民、患者の理解、同意を得て施設同士のやりとりができるものになる。</p> <p>資料 3.1 の図のように、それぞれの機関でそれぞれの情報をやりとりすることができる。このシステムは、電子カルテを導入していない医療機関や介護施設でも活用できるというのが特徴であり、今回の補助対象の条件でもある。情報端末の配布も検討しているため、電子カルテの導入の有無は関係ないので、誤解のないようお願いしたい。</p> <p>資料 4.1 はネットワークの患者情報である。患者様単位で施設ごとの履歴情報を一覧で見ることができる。</p> <p>平成 28 年度の診療報酬の改定で、「電子的診療情報評価料」の 30 点が新設され、診療情報提供書と併せて、画像情報・検査結果等を電子的方法により提供した場合に加算できることになった。このシステムの一つの特徴として、利用者にシステムの利用料を負担してもらうことが条件になっている。1 軒のクリニックで月額 1 万円～1 万 5 千円程度である。この使用料を加算分で賄えると考えている。</p> <p>事業推進の体制だが、西和医療圏地域医療連携推進協議会を立ち上げ、運用のルールづくりなど検討を進めていく。規模の拡大により協議会を母体とした法人化の実現を構想している。平成 29 年度中に運用を含めシステムを立ち上げることが条件となっているので、資料 6.1 は今年度中に完成させるスケジュール案になっている。</p> <p>本部会の皆様にご活用いただければと思う。ご協力をお願いしたい。</p>
<p>部会長</p>	<p>ただ今の説明についてご質問等あるか。</p> <p>この事業は西和医療圏を中心として大きなネットワークを作る。ネットワークに参加した医療機関や介護施設などがネットワークを利用して医療機関の情報や薬局の情報などを知ることが可能になる。いわゆる情報の ICT 化である。本部会でも情報の共有化、書式の統一等が問題になっていたが、これを利用することによって情報のやりとりがスムーズになるのではないかと期待している。これらを踏まえて、部会でも検討を加えつつ活用できればよいと思った。</p> <p>先ほどもおっしゃっていたが、近畿大学医学部奈良病院を中心としたネットワー</p>

	<p>クを作るのではなく、はじめは事務局的な役割で、その後、西和医療圏地域医療連携推進協議会でこのシステムを継続、運用していくということで、よろしいか。いずれはこれに参加する皆さんの事業所が中心になってやっていくということによるか。</p>
近大奈良病院 事務長	はい。
部会長	何か質問は。
委員	初めて聞いて、いよいよ始まるのかとワクワクした。これは最終的にはほぼすべての医療介護の方が携われるようになっていくのか。
近大奈良病院 事務長	はい。今回の事業の条件として多職種の参加が必須となっている。関わり方は今後研究をしていかなければならないが、すべての情報が皆見られるわけではなく、施設に応じて情報の見方がルール化されており、運用をこの協議会を通じて検討したうえで立ち上げる。調剤薬局も情報を共有していただく一員になる。
部会長	<p>できるだけ多くの職種に関わる事業所が参加していただくことによって有効性が増してくる。ただ利用料が発生してくるようなので、その金額で参加できないところがあるかもしれない。そこは今後の運営、協議に関わってくると思うが、参加者が多いほど有効活用できると期待している。</p> <p>ほかにご質問はないか。</p>
委員	私のところは電子化が遅れており、まだ紙カルテを使っている状況である。例えば、訪問リハビリで利用者様の過去の情報を見られると有り難い。また、先生方に指示書を紙に印刷して切手を貼り送付していただくという手間をかけている。こういったことも電子上で指示書を依頼したり返書をいただいたり、我々のほうで作っているデータベースの用紙を送ってご記入いただいたりというやりとりも可能になるということか。
近大奈良病院 事務長	はい、可能です。
委員	<p>そうなると、タイムラグなしに直接確認したいことがお聞きできるなど、有効なのではないかと思う。</p> <p>情報は過去何年まで遡れるのか、規定はこれから作るのか。</p>
近大奈良病院 事務長	そうなるかと思う。ただ電子化は情報をタイムリーに見るというイメージになるので、通常保有している情報が基本的に見られるということになると思う。
委員	利用者の過去の既往歴や禁忌事項、術式など、前の医療機関にかかられたものは分かりにくくなるので、検索できると、リスク管理上も有用だと感じる。是非有効に活用したい。

部会長	<p>今のご質問にあったように、ネットワークでは共通の書式で使用できるという回答であったが、ほかにもこのようなことができないかとネットワークの委員会で提案するのは大丈夫か。</p>
近大奈良病院 事務長	<p>はい。</p>
部会長	<p>皆さんからいろいろ提案すれば実現するかもしれない。医療と介護の資源集もそちらにうまく入れればいいのかと思う。また皆さんのご意見・ご希望を集約して、提案させていただこうと思う。</p> <p>ほかにご質問は。</p> <p>(質問なし)</p> <p>本日の案件についてはすべて終了した。全体を通してご質問・ご意見はないか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>では、先ほど近畿大学医学部奈良病院から説明いただいた件については、本部会の活動に密接に関わってくることから、これからも情報共有できればと思うので、次回以降、部会員として入ってもらってはどうかと思うが、よろしいか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは、部会員に入ってもらおうことにするが、その手続きを事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>部会員については、生駒市医療介護連携ネットワーク協議会開催要綱第7条第2項で、「部会は会長が指名する委員又は当該委員が属する職域の者で当該委員が推薦するものをもって構成する」と規定している。この後、ネットワーク協議会が開催されるので、そこで部会長から発議いただければと思う。</p>
部会長	<p>それでよろしいか。他にないか。</p>
事務局	<p>まだ時間があるので、入退院調整マニュアルについてご意見をいただければ有り難い。</p>
部会長	<p>入退院調整マニュアルづくりについてご発言はないか。</p>
委員	<p>ほかで実施している入退院調整マニュアルをみたが、退院時にケアマネが決まっていないうちは、包括へということになっている。現場で業務しているなかでも、明らかに要介護の状態でも包括に連絡が来て中途半端に関わってしまう。ケアマネにバトンタッチするのだが、ケアマネが初めから関わっていたほうがよかったという事態が、現場で起こっている。こういったことを含めて、生駒市のマニュアルで</p>

	<p>は現場に即したものを作っていくことを望む。それは患者にとっても安心でき、現場の業務の煩雑さも軽減できる。皆さんにご一考いただけると有り難い。入退院調整マニュアルづくりにおいては、現状を十分把握したうえでよりよいマニュアルを作っていただきたい、というご提案である。</p>
<p>部会長</p>	<p>入退院調整マニュアルはすでに県内でも実施しているところがあり、効果がでて情報がスムーズに流れていると、先ほど今西委員からもご報告があった。非常に有益なものと思われる。先人のマニュアルを参考に、現場の意見を吸い上げたうえで、生駒市に即したマニュアルが完成できれば有意義だと思う。今年度1年間、委員の皆様、特にワーキンググループのメンバーになられた方々にはご尽力いただかないといけない。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどの発言の追加で、平成29年度、入退院調整マニュアル事業は西和7町（平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・河合町・王寺町・上牧町）で取り組んでいる。生駒市と同時に進めて行ければよいと思っている。</p>
<p>部会長</p>	<p>これですべての案件が終了した。</p> <p>会に先立ち、数名の委員の交代があったが、医師会でも役員交替の時期となり、それに伴い私も部会長を退任し、溝口先生と交代させていただくことになった。委員の皆様にはご迷惑をおかけするかもしれないが、よろしく願います。この1年、皆様の活発なご討議やご協力により在宅医療介護連携の第一歩を着実に踏み出せたと思う。今日の話にもあったように、今後多くの取組が控えているが、私も在宅医療の現場を担う者として微力であるが寄与していきたいと思う。今後ともよろしく願います。ありがとうございました。</p> <p>ここで、委員の交代と部会長の選任を副部会長に願います。</p>
<p>副部会長</p>	<p>有山先生、1年間ありがとうございました。今後も引き続きご指導、ご鞭撻賜りますようよろしくお願いいたします。有山部会長が辞任されたので、部会員の選任および部会長の選出をさせていただく。部会員の選任については、生駒市医療介護連携ネットワーク協議会開催要綱第7条第2項で、「部会は、会長が指名する委員又は当該委員が属する職域の者で当該委員が推薦するものをもって構成する」となっており、市と市医師会との協議の結果、市医師会会長の溝口精二先生を選任されているので、ご報告させていただく。</p> <p>続いて、部会長の選出である。部会長の選出については、在宅医療介護推進部会の設置及び運営に関する規定第3条第2項の規定に基づき、部会員の互選により決めたい。推薦等ないか。</p>
<p>委員</p>	<p>引き続き、生駒市医師会の溝口先生に願うのが適任と考えるが、いかがか。</p>
<p>委員</p>	<p>私も適任と考える。</p>
<p>副部会長</p>	<p>ただ今、溝口委員を部会長にとの発言があったが、そのように決定してよろしいか。</p>



<p>新 部 会 長</p>	<p>(拍手)</p> <p>それでは、そのように決定する。</p> <p>有山先生に代わり、部会長に就任した医師会の溝口です。有山先生のようにうまく進行役はできないが、よろしく願います。前年度を踏まえて、ワーキンググループなどいろいろなことが平成29年度のスケジュールに上がっているので、よろしく願いたい。先ほど ICT 化の話をした。奈良・大和郡山市は SNS を使っている。天理市、橿原市などでも取り組んでいるが、相互に乗り入れができないので、近大医学部奈良病院が大きな医療圏の ICT 化に取り組み始めたことは意義がある。本部会ではこの1年、スピードをもって進めていきたい。</p> <p>事務局から何かあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>この後、5時から医療介護連携ネットワーク協議会が開催される。協議会委員の皆様は、ご参集いただきますようお願いいたします。なお、部会員の皆様も、平成28年度の活動および平成29年度の予定について各部会からの報告があるので、参加をお願いします。</p>
<p>新 部 会 長</p>	<p><b>4 閉会</b></p> <p>では、これで第1回在宅医療介護推進部会を終了します。</p>